

※文字の大きさは Meiryo UI /12 ポイント以上とし、行間・文字間、上下左右の余白は変更しないでください。
 ※具体的に示したい図、写真、表、グラフなどは、(写真1) (表1) などと文中に記載し、右ページに(写真1) (表1) などと表記の上、貼り付けてください。
 ※文章と図等を組み合わせながら作成することも可能です。各項目の枠の上下幅は変更可能です。
 ※いずれの場合も、必ず A 3 片面 1 枚におさまるように作成してください。ファイルサイズは 5 MB 以下としてください。

※事務局記入欄

【様式 2】

No. D-119

部門名：4. 校内研修部門	エントリー名：岡山県立和気閑谷高等学校
活動名：一人一人が輝く教室づくり ～学び合う教職員集団の形成～	
<p>解決すべき課題： 学びに向かえない、自分の成長を実感できない生徒が全体の 3 割存在している。また、人事異動で、3 分の 1 以上の教員の入れ替わりがあり、授業改善の成果を共有、継承していくことが課題。</p>	
<p>目標・方針： 生徒一人一人が主体的に学びに向かうことができ、自分の成長を実感できる学校づくりを目標としている。そのために、学ぶ意欲を引き出す学習課題とその評価基準であるルーブリックの作成と実践に全教職員で取り組む。(図 1) 取り組みの評価にあたっては、教職員だけでなく生徒も参加する。(図 3)</p>	
<p>活動内容： 1. 授業改善の意義、目標、見通しを全教職員で共有する。</p> <p>2. 月 1 回、仲間の好事例に学ぶ研修+年 1 回、全教職員が役割をもつ研究授業を実施。(図 2、4)</p> <p>3. 年 3 回、評価委員会を設け、外部有識者に加え、授業を受ける生徒の代表が意見を述べ、その結果を教職員だけでなく、全校集会の折に全生徒にもフィードバックする。(図 3)</p>	
<p>活動の成果： ☆ 学び合う教職員集団の育成が「生徒が主体的に参加する学校」をつくる</p> <ul style="list-style-type: none"> 互いの工夫を出し合う研修を毎月の職員会議後に行うことで、学び合う教職員集団を形成。 各科目等の研究成果(意欲を引き出す課題、ルーブリック等を記載した実践報告書)を公開。(図 5) 各教科が 3 年間を通して付けたい力を「長期ルーブリック」として生徒に提示。組織的な授業づくり。 「学習目標」にたいする「省察機会」に全授業で取り組み、生徒が自己の成長を自分で語れるように変容。 	
<p>アピールポイント (アイデアや工夫)：</p> <ol style="list-style-type: none"> 「できるところからぼちぼち」の学び合いが同僚性を高め、授業改善の次への一步の活力になる。 生徒が学習者として成長し、自己指導能力が向上。 生徒の成長を、生徒と教職員全員で確認できる場を創出。 	

(図 1)

育てたい生徒像

- (1) 誠実な心をもって最善を尽くし、学力と教養を深めよう (A 学力)
- (2) 自らを律し、主体的に考え、置かれた場で課題を発見し探究する人になろう (B 学力)
- (3) 自他を敬愛し、心を開いてコミュニケーションのできる仁恕の心を育もう (C 学力)

日々の授業(各教科・総合的な探究の時間)をはじめ、全ての教育活動を通して育成

A 学力: 知識・技能
B 学力: 思考力・判断力・表現力
C 学力: 学びに向かう力・人間性等

授業改善の目標「一人ひとりをいかに教室」づくりによる「学力向上」を目指す研究

全員

I 生徒と教師、教師同士の学びの共有化
～授業の顔縁の統一～

- ・学習の目標、手順、達成基準の明示
- ・省察(振り返り)の機会を設ける。

チャレンジ

II 学習内容の深化と学習評価の共有化

生徒の学習意欲を引き出す、学ぶ値打ちのある探究的なパフォーマンス課題とその評価(ルーブリック)の実践。

III 卒業までに付けさせたい資質・能力と長期ルーブリックとの関連の明確化

教科の長期ルーブリックの作成と実践

(図 2)

職員会議後の研修の一場面(上)。参加者が撮った板書の写真をもとに、「本時の目標」問いの立て方、達成基準の示し方など、お互いの実践を出し合い、学び合っている様子。11月の研究授業で授業参観者が授業の気づきを出し合っているところ(下)。

(図 3)

1 年次生
やる気がなくなったら先生の「問い」や「目標」を見つけよう。

2 年次生
「分かった！」この感情を忘れず意欲的に物事に取り組もう。

3 年次生
いい授業をする責任は生徒にある。

代表生徒が参加した学力向上評価委員会(上左)とその会議結果を全校集会で報告している様子(上他三枚)。

教職員全員が実践報告をホームページに掲載(下の 2 枚)

(図 4)

(図 5)

岡山県立和気閑谷高等学校
平成 30 年度生徒と教師がともに創る授業の実践紹介